

令和4年度 第1回丹波市総合教育会議 会議録（要約）

日時：令和4年7月28日（木）午前10時40分～午前11時40分

場所：丹波市役所山南支所3階 大会議室

出席者

市長	林 時彦
副市長	細見 正敏
教育長	片山 則昭
教育長職務代理者	深田 俊郎
教育委員	横山 真弓
教育委員	安田 真理
教育委員	上羽 裕樹
総務部長	太田 嘉宏
教育部長	藤原 泰志
教育部次長兼学校教育課長	池内 晃二
教育部次長兼教育総務課長	足立 勲
教育部教育総務課総務係長	足立 真澄
健康福祉部健康・子育て担当部長	徳岡 泰
健康福祉部子育て支援課認定こども園係長	
	福田 みさ代
総務部総務課長	荒木 一
総務部総務課総務係主幹	青木 明美

傍聴者 1名

1 開会

太田部長

2 市長挨拶

林市長 挨拶

太田部長 傍聴者の報告

出席者自己紹介

3 協議事項

(1) 幼児教育・保育の課題と取組

池内次長 資料に基づき説明
(質問なし)

4 意見交換

○片山教育長

- ・幼稚園教諭と保育士とでは、文化の違いがあるため、保育士には研修が受け入れられない。また、時間的余裕もない。
- ・加配保育士が増えている原因は、発達検査で加配が必要と言われた子供全てに配置しているからである。
- ・各学校、各こども園を巡回し、所管についての意見を聞いたところ、大半が教育委員会所管を望んでいる。

○林市長

- ・0歳から15歳までの切れ目のない教育を掲げている以上、こども園の所管換えについては、十分に検討したうえで進むべき方向性を決めていくべきである。

○深田委員

- ・こども園は、教育委員会の所管ではないため、スムーズな状況の把握ができない。
- ・個人的には、教育委員会が所管すべきと考えるが、事務局が混乱することも懸念する。
- ・幼稚園教諭が辞めてしまい、こども園での教育の継承が進んでいない。
- ・現場では、教育よりも事故が起きないように安全第一に力を入れている。教育より保育である。
- ・特別支援教育について、支援を要する園児の増加はどの程度なのか。今後、加配保育士はどのように増加するのか。
- ・こども園では、子供が帰る時間も様々なので、研修ができないと聞いた。

○福田係長

- ・令和3年度では、約120名の申請があり、100名弱を認定し、66名の加配保育士が配置された。保護者の希望も増えている。
- ・コロナの影響もあり、参集しての研修が難しい状況ではあるが、Web研修等により工夫をしながら実施している。

○横山委員

- ・0歳から5歳は、保育という福祉的な部分が多い。学習へ移行するのは

6歳。基本は保育で、その上に教育がある。

・加配保育士が増えている原因は、親や子が抱えている福祉的な問題があるのではないかと。

・幼児教育さえできていれば、学習ができるとは限らない。

・所管が変わることが、支援の増加に繋がるとは思わない。現場の課題を解決することが第1の議論である。

・現段階では、情報が不足しているため判断できない。

○安田委員

・保育士は、安全に子供たちを守ることを大切にしているが、現場では通常業務に追われ、それができない。保育士がどんどん減っている。

・実際の教育の内容に、どのようなギャップがあるのか。

○池内次長

・小学校に入ったら、こうあるべきというものを持ちすぎているのかもしれない。

・こども園での生活の入り方をうまく繋いで、学習に向かわせる方法も考えていかなければならない。

○徳岡部長

・保育士を志す人は一定数いるが、丹波市では、こども園が募集しても集まらない。また、理想と現実のギャップが大きく、辞めてしまう人が多い。

○上羽委員

・幼稚園がこども園になり、先生たちの研修ができていないと思っていた。

・実際は、安全第一。時間的余裕もない状況。

・現場の保育士が、何を学びたいのか、それがどのようなキャリアアップに繋がるのか、情報を収集したい。

○片山教育長

・保育か幼児教育か。こども園から大学まで、自分で考えて行動する力を身に付けるという方向性は同じ。発達段階によってできればよいと思う。

・特別支援教育では、加配保育士を付ければよいのではない。支援がうまくいき、徐々に必要なくなるのが理想。

・所管換えについては、先生に力を付けるには、組織の中で考える方がやりやすいのではないかとという意味。

○太田部長

・丹波市の目指す姿、行政としての組織改編に取り組んでいる。令和6年度の組織改編に向けて、市長部局から教育委員会へ移管するかどうかは今後協議していく。

5 その他
(なし)

6 閉会
太田部長